



④青木は終始独走。



最近ではあまり見かけなくなった青木のヘルム・スタイル。 ⑤石崎のコーナリング。



# '73 SRC ゴールドカップレース大会

12月9日 主催=山陽スポーツランド 中山サーキット 1.55km

'73 SRC ゴールドカップレース大会最終戦は、12月9日師走の日ざしをあびた中山サーキットに関西、四国、広島方面の選手が参加して行なわれた。年末と石油ショックが重なって参加台数は少ない。それでも22台が集まり3レースにわたって白熱戦が展開された。石油戦争のあおりをうけて心配された帰りの燃料もサーキットで確保されていたので選手は何の心配もなくモータースポーツに汗を流した。

## Mクラス・レース 出走7台 30周

Mクラス予選で④青木健一郎(サンジョーブ・フロンテ)は、前日の練習中転覆し、大破したマシンを修理しての参加であった。④青木はウィンドガラスが入手できず、ゴーグルをつけて出走し、1分01秒4で記録を更新ポールポジションを手中におさめた。2番手には⑨安原幸市(ホンダ)が続いた。

決勝レースで好スタートを切ったのは、④青木であった。オープニングラップでトップに立った④青木はコントロールタワー前で、2番手⑨安原を早くも30mと引きはなしていた。2番手の⑨安原は、3番手の⑤山根勉(ホンダ)とテールツー・ノーズのデッドヒートを展開していた。62秒台で周回を重ねる

④青木の俊足には2番手⑨安原も歯が立たず、序盤で④青木の先行を許してしまった。レースの焦点は2番手⑨安原と3番手⑤山根の攻防戦に集中し、⑤山根の猛攻撃を受けた。

⑨安原はしだいにエンジン・パワーが落ちはじめ遂に8周め、第4コーナーで⑤山根に抜き去られてしまった。2番手を手中に入れた⑤山根はトップの④青木の追撃戦に転じたが時すでに遅く④青木との間には15秒の差が開き、④青木の先行作戦に2番手⑤山根も周回ごとに水を開けられるハメとなった。

トップの④青木は2番手⑤山根に30秒の差を開いて30周を31分10秒7で走り優勝のチェッカーを受けた。2位⑤山根、3位⑨安原の順位であった。

結果 1位 ④青木健一郎(フロンテ360) 31分10秒7 30周 2位 ⑤山根勉(ホンダ500) 30周 3位 ⑨安原幸市(ホンダ) 29周。

## FJ・FLクラス・レース 出走6台 30周

公式練習中に⑤石崎恒行(戸田SR-II)がミッション・トラブルに見舞われて予選に出走できず最後尾のポジションになった。ポールポジションは56秒6で⑤川嶋功二(昭和石油RS-1)の手中におさまり、2番手に⑤緒方行雄(関西水栓SPL)、3番手⑩仲矢文和

(ハヤシ706)が最前列を固めてスタートが切られた。

⑩仲矢⑤緒方は寒さのためにスリック・タイヤが固く、ホイールスピンを起こして前進せずシフトミスをおかしてエンスト、再走にはいったが戦列より大きく遅れてしまった。序盤でトップの座についた⑤川嶋は2周めにはいると、第2コーナー上りで⑤石崎に捕えられ、トップの座を奪われてしまった。⑤石崎はトップの座を手中に入ると、56~57秒台で⑤川嶋と渡り合うが、不運にも⑤川嶋のエンジン・マウントがいかれてしまい、ペースダウン。これを最後尾より追いつけた⑤緒方が捕えて激しく攻めあげると第2コーナーで激しく大スピンをやらかしてしまった。が順位はそのまま。トップの⑤石崎は2番手以下に大きく水を開き、後半戦に突入するといよいよ独走態勢を固めた。けっきょく順位はくずれることなく⑤石崎が快勝してチェッカーを受けた。

2位⑤川嶋、3位⑤緒方であった。  
結果 1位 ⑤石崎恒行(戸田SR-II)28分4秒3 30周 2位 ⑤川嶋功二(昭和石油RS-1)30周 3位 ⑤緒方行雄(関西水栓SPL)30周。

1300・2000混合レース 出走9台 30周